

邦楽“虹の輪” 演奏者プロフィール



明妻 薫子 (あけづま くにこ)
高須和子氏 (坂井敏子氏門下生) に師事。箏和会、宮城会 各会員

佐藤 眞理子 (さとう まりこ)
箏曲を塚本泰子氏、地唄を仲林光子氏に師事。箏曲七声楽院助教。邦楽演奏グループ柿楽にて小学校や自治会等にて箏の指導・演奏。ショパンピアノ教室主宰。

柴田 裕子 (しばた ひろこ)
6歳より、宮城会、故英 恵美子氏に箏の手ほどきを受ける。故坂井敏子氏に師事。十七絃を宮越圭子氏に師事。調布三曲協会会員、NPO邦楽指導者ネットワーク21会員

仲山 順子 (なかやま じゅんこ)
五世山勢松韻・人間国宝六代 山勢松韻師事
私立三輪田学園中学校・高等学校箏曲部講師
山勢松韻会・(社)日本三曲協会・山田流箏曲協会所属
三曲あさお会員

中山 淑子 (なかやま としこ)
箏、地唄三絃を宮城会、故須山知行氏に、現代三絃、長唄を上原潤之助氏に師事。
洗足学園音楽大学現代邦楽研究所2期卒。港北三曲会、三曲あさお会員

飛田 光江 (とびた みつえ)
故徳山澄子氏に師事。故原田倭子氏に師事、現在須田淑子氏に師事。
邦楽演奏グループ柿楽にて小学校・自治会等で箏の指導・演奏。
創明音楽会会員。

相島 えみり (あいじま えみり)
飛田光江氏に師事。創明音楽会会員。

橋本 洋 (はしもと ひろし)
尺八に魅力を感じ、多くの方々と合奏できる贅沢を堪能して、楽しんでおります。

山田 陽子 (やまだ ようこ)
箏を井出泉玉氏、箏・三絃を故菊庭和子氏、故菊保多都子氏に師事。
(公社)当道音楽会元会員

佐藤 祈采 (さとう きさい)
ジョン・海山・ネプチューン氏、田嶋直士氏、三橋貴風氏他より尺八の指導を、仲林光子氏より篠笛の指導を、前田りり子氏よりフラウト・トラヴェルソの指導を受ける。
2012年と2015年に東日本復興支援コンサート (尺八リサイタル) を開催。
邦楽スコアメーカー JapoScore を開発・公開。
調布三曲協会会員、邦楽演奏グループ柿楽メンバー、邦楽“虹の輪”主宰



邦楽

虹の輪

箏・三絃・尺八コンサート

Vol.5

2021年9月24日 (金曜)
14:30開演 (14:00開場)

麻生市民館大ホール
(小田急線「新百合ヶ丘駅」北口下車 徒歩3分)

入場無料

お願い：コロナ感染対策のためマスクの着用をお願いいたします。
また、お席はお隣の方と離れてお座りください。

ごあいさつ

本日は、邦楽“虹の輪”の「箏・三絃・尺八コンサート」によるごそお越しくございました。“虹の輪”の演奏会は今回で5回目を迎えることができました。前回同様、古曲、宮城道雄作品、現代作品の中から7曲を選びました。どうぞ最後までごゆっくりと演奏をお楽しみください。このシリーズの演奏会は、当初、東日本大震災の復興支援のチャリティとしてスタートしました。原発問題が解決しないうちに、今度は新型コロナウイルスの流行により社会が大きく混乱してしまいました。不安を抱えている方も多かもしれません。でもストレスは逆効果。より楽しい時を過ごすことも大事ではないでしょうか？この演奏会が皆様にとって少しでも元気を取り戻す助けになれば幸いです。

プログラム

1 春の夜

宮城道雄 作曲

箏1 佐藤 真理子 相島えみり
箏2 飛田 光江 尺八 橋本 洋

宮城道雄が京城（現ソウル）に住んでいた頃（1913年、大正2年）の作品。土井晩翠の新体詩に曲を付けたもの。春雨のしっとりとして物憂い雰囲気を表現した手事が印象的です。

あるじは誰そや 白梅のかほりにむせぶ春の夜は
朧の月をたよりにて 忍び聴きけむ つまごとか
（そのわくらはの手すさびに そぞろに酔えるひと心
かすかに洩れし灯火に 花の姿は照りしとか
たおりは果てじ花の枝 慣れし宿りの鳥鳴かん）
朧の月の恨みより その夜くだちぬ春の雨
箏はむなく音を絶えて 今はた忍ぶ彼ひとり
ああその夜半の梅が香を ああその夜半の月影を

2 みずほのうた

宮田耕八郎 作曲

十七絃 柴田 裕子 尺八 佐藤 祈采

東京生まれながら、幼い頃しばらくは田舎で農作業の手伝いなどをして育った私には、緑の水田も黄金色の波打つような稲穂も、たまらなく好きな風景です。緑の水田、収穫への期待。水ぬるみトンボが飛びアメンボが泳ぐ夏。黄金色の稲穂の波と、喜び、歌、踊り。そして現在、急速に失われてゆく水田への追憶と告発の意思をこめて・・・遠い山並みには、沈む大きな夕陽を想いながら曲を終わります（1978年、作曲者）。

3 町へ (Going to Town) ジョン・海山・ネプチューン 作曲

箏 明妻 薫子 三絃 中山 淑子 尺八 佐藤 祈采

初めて田舎から町へ出てきた人のミュージカル・ストーリー。田舎風の陽旋法を用いた尺八の独奏に始まり、陽旋法に乗って軽やかな足取りの旅が続きます。町に着いた途端に旅人は町の華やかさに衝撃を受けます。都会風の陰旋法によるゆっくりとした憂いのあるメロディーが続いたあと、旅人はさまざまな出会いの後、都会の早いペース、テンポ、国際的な色彩、音階のトーンを楽しめるようになります（1995年、作曲者）。

4 花舞

牧野由多可 作曲

箏I 明妻 薫子 箏II 佐藤 真理子 十七絃 柴田 裕子

伝統的な日本の音感を基礎として、それにやや現代音楽的な音の動きや鋭角な拍子を与え、奏者が楽しみながら現代曲へのアプローチができるように配慮した（1980年、作曲者）。今回は抜粋でお聴きいただきます。

～ 休憩 ～

5 八千代獅子

藤永検校 作曲

箏 飛田 光江 相島えみり 箏・替手 仲山 順子
三絃 中山 淑子 尺八 橋本 洋

地唄・箏曲。獅子の狂いを表現した三段の手事が中心。平易で有名な曲。もとは尺八曲で、胡弓や三味線の曲に移され、さらに箏曲になった。古くから下座音楽にも利用されている。

いつまでも かはらぬ御代に あいたけの
世々は幾千代 八千代ふる
雪ぞかかれる 松の二葉に
雪ぞかかれる 松の二葉に

6 桜吹雪

神坂真理子 作曲

箏 佐藤 真理子 十七絃 明妻 薫子
尺八 佐藤 祈采

この曲は、散りゆく桜の様々な情景を描いたものです。曲全体を通して、散りゆく桜の美しさ、潔さ、はかなさを、花散らす風とともに描きました。（2016年、作曲者）

7 四つの小品

長澤勝俊 作曲

箏1 中山 淑子 仲山 順子 箏2 柴田 裕子 山田 陽子
十七絃 明妻 薫子 三絃 佐藤 真理子
尺八 橋本 洋 佐藤 祈采

長澤勝俊は邦楽器のための合奏曲をたくさん書き残しました。美しく、哀愁を帯びたメロディーは今でも多くの人を惹きつけています。四つの小品は、「沖繩の風・宴・虹の輪・京の春」の四つの小曲からなります（1980年）。